くにみ

【第３６号】
昭和35年９月15日発行
非売品
発行所　国見町公民館
発行人　佐藤善次郎
編集人　鈴木美一
印刷所　宇佐美印刷所

豊作を祝い 町ぐるみのスポーツ

第7回町民体育大会
10月9日……県北中で

町民のみんなが参加しましょう

町村合併と共に発足したわが町民体育大会もここに七回をかぞえ、名実共にわれらのスポーツとレクリエーションの祭典として町民にしたしまれ、年ごとにその参加者を増し、他町村からも注目されている。

ことしは更にその趣旨を徹底し、各種団体や各地区の創意工夫と積極的参加をいただいて、有史以来の豊作の年にふさわしい大会にするよう、関係者は目下準備中である。

◇会場…県北中運動場
◇期日…十月九日（日）
◇採点…しない
◇賞…殊勲賞、敢斗賞、技能賞、参加賞などいろいろあり

◇種目…体育大会というと、とかく選手競争か、一部少数の体育愛好者だけのものになりやすいが、わが町の大会はその名の示す通り、町民みんなのレクリエーションの会である。誰が見てもおもしろく、やればなおおもしろい。そして町民であるかぎり誰でも参加できる、ほんとうにわれわれの大会にしたい。

◎みんながまざる一般競技
○五十米走　男四十以上女三十以上の人
○百米走　右以下の人
○マラソン
○輪廻し（男）
○両手スプーン（女）
○おしどり競争（札合せ二人三脚）男女
○職場対抗四百米リレー　同じ職場の人四人で一チームとする
○部落対抗五百米メドレーリレー　同じ部落の人四人で一チームとする、五十、百、百五十、二百を走る

◎青年団（青年学級含む）
○千五百米走（男）
○借物競争（女）
○方部対抗ボール運び（女）
○紅白対抗五人二脚（男女）
○ダンス（男女）
○各部対抗リレー

◎婦人会（婦人学級含む）
○借物競争
○夢
○方部対抗玉入れ　方部四〇人出場
○紅白対抗球ころがし　希望者参加
○踊り　九十九里浜唄　日本よいとこ　もしも（婦人会の歌）

◎消防団
○出動競争
○火災原因調査
○分団対抗千六百米リレー　方部八人
○ポンプ操法実演

◎剣友会・郷友会
○剣道
○銃剣道

◎来賓その他
○来賓の輪廻し
○議会リレー
○部落長会のビンつり
○総合綱引

◎特別出演として各方部のだしものあり

◇参加申込…団体関係のものはすべて団体長から連合団体長にまとめる　一般競技は当日会場で受付ける。但し職場対抗リレーは職場長より、部落対抗リレーは部落長より前もって申込む

正誤

本紙八月十五日付第三五号記事中左記の脱落がありましたので謹んで訂正いたします。「七夕まつり」の入賞者氏名に◎町長賞菅野丸六商店、新農業委員に鈴木貞助（小坂）氏をそれぞれ追加します。

（第9回）国勢調査実施のお知らせ……

「この調査、明るい日本を生む力」

総理府統計局では、来る十月一日を期して、全国一斉に国勢調査を実施致します。

申すまでもなく、この調査は、国内の人口を正しくはあくし、もつてあらゆる行政施策その他の基礎資料とする目的のもとに実施しており、大正九年の第一回調査以来五年毎に過去八回行われ、今回は九回目で、特に今回の調査は十年毎に行われる大規模調査に当つております。

また、国際連合では、各国の調査の結果がお互に比較できるように調査の基準を定め、今年を中心に各国が国勢調査を実施するよう勧告しており、これを世界人口センサスと呼んでおります。今回の調査もこの勧告を尊重して計画され、その意味で国際的にも重要な意義をもつております。

この準備調査のため、九月二十四日より担当調査員が、各家庭に参上しますので、よろしくお願いいたします。

調査員氏名は次の通りです。

○藤田地区（二〇名）
谷津　藤治　樋口金三郎
武田庄太郎　岩城　重夫
三浦　友造　秦　精三
宮内　ミエ　渡辺　孝一
阿部　重男　奥山　邦夫
高橋　幸雄　佐久間英明
阿部　重一　佐々木義蔵
菊地　利雄　菊地　昭平
菅野　一英　吉田　幸平
吉田　栄作　吉田　栄
斎藤　実　斎藤　正美

○小坂地区（一〇名）
佐藤　俊雄　仲野周一部
阿部　三義　安藤　良一
菅野　正也　菅野　春三
鴨田　清作　遠藤　正一

○森江野地区（一〇名）
宍戸　吉三　佐藤　彦一
吉田　正雄　佐藤　升巳
佐藤　充作　八巻　正雄
佐久間成美　蓬田　正敏
菊地　憲七　高梨　正広

○大木戸地区（九名）
斎藤　太郎　高橋　成夫
星野　一　渋谷主一部
佐藤　幸作　八島　栄一
松浦喜一郎　阿部　長
菊地　正次

○大枝地区（五名）
小林　福治　佐藤　長寿
瀬戸　瑞夫　後藤　昌伸
鈴木重太郎

がつしり手をくんで 青少年の補導を！

昨年各部落に設けられた青少年指導員は、それぞれ会長を中心に、地域の実情に即した活動をして、相当の効果をあげてきた。しかし、その組織が部落毎に孤立しているため、相互の連絡提携ができずとかく効果が散発的になりやすかつた。そこでこんど、補導員会の代表者と民生（児童）委員との合同協議会を開き、全町一体としての連絡協議会を組織した。これで相互の連絡協議もうまくゆき、或は協力して補導員の研究会のような事業をすることも便利になつた。ただこうした組織の統合にありがちな通弊として心配されることは、とかく中央集権的になつたり、中央依存主義になつて、せつかく育ちかけた地域の自主性を阻害されることである。これについてある会員は次のように述べている。

「元来、われらの青少年はわれらの手で護ろうという家庭的な考えから発足した補導員会は、あくまでも部落民の自主的活動を主柱としなければならない。大きな組織にありがちな中央依存になつて、上からの指示がなければ動かないとか、上からの指令通りに動かなければならぬというようなことになつては困る。」

尚役員は次の通り。
会長　八島福太郡
副会長　谷津　藤治
書記　朝内　宗光
会計　五十嵐　衛
理事　小坂　佐藤　豊吉
〃　佐藤　元一
藤田　奥山福太郎
稲村彦三郎
阿部　重一
吉田　五郎
森江野　徳江　喜一
〃　宍戸　吉三
大木戸　鈴木誠之助
〃　大沼　春代
大枝　大浪　政吉
〃　松浦　義男

会員名次の通り
藤田地区（十六名）
鈴木美一（大町南）稲村彦三郎（大町北）日塔洪然（本町）谷津藤治（駅前）秦作蔵（錦町）奥山勝太郎（宮町南）奥山福太郎（宮町北）内村忠右ェ門（町東）中野助太郎（鶉町）佐藤久蔵（石母田表）阿部重一（石母田東）斎藤邦重郎（石母田西）宍戸巳吉（石母田北）菊地正男（石母田原）吉田五郎（山崎北）吉田幸平（山崎南）

小坂地区（十名）
山田末蔵（板橋）安藤仙助（前田）高橋友義（小坂）佐藤忠雄（太田川）林元治（鳥取）菅野富蔵（内谷西）菅野賛郎（内谷東）佐藤栄（泉田上）佐藤豊吉（泉田中）紺野忠蔵（泉田下）

森江野地区（十二名）
宍戸吉三（第一）佐藤一江（第二）武田新右ェ門（第三）吉田嘉蔵（第四）斎藤勘吉（第五）阿部尚信（第六）佐野甚兵ェ（第七）佐野謙（第八）村上豊一（第九）菊地唯七（第十）高橋勇記（第十一）佐藤倉治（第十二）

大木戸地区（五名）
斎藤与市（貝田）加藤万拙（光明寺）八島福太郎（高城）武田三郎（山根）鈴木誠之助（大木戸）

大枝地区（六名）
小林伊惣次（原町）松浦義男（築館）新井玄竜（並柳）瀬戸伝治（中部）佐藤重吉（北部）大浪政吉（川内）

「幸（しあわ）せをそだてる心で積む年金」 阿部さん第一位入選

◎助け合う気持で伸ばせ　国民年金

国民年金の十月発足を目前にして、担当課員は連日部落説明会を開いていたが、ようやく一巡し、国民年金に対する町民の理解と意欲はすばらしい盛りあがりを見せている。これを裏付けるかの如く、県が先に募集した国民年金の標語に、当町石母田の阿部運蔵さんが見事第一位に当選し、八月三十一日、その披露会が福島市公会堂で行われ、県知事、中合、山一、民報社等から、もちきれないほど沢山の賞品をもらつた。

◎幸せをそだてる心で積む年金

尚優秀作品の部を紹介する。

◎汗で出し笑顔で貰う国民年金

35年度馬鈴薯競技会 上位入賞は内谷と西大枝

町農業改良推進員協議会では三十五年度馬鈴薯増収競技会を催うし、先頃その結果が発表された。参加四十八点のうち入賞十五点、特にベスト3が内谷東で独占し、ついで西大枝からの入賞が多いのは注目される。（数字は坪当キロ数）

一等	一四、二二〇	佐々木長一
二等	一三、二二〇	熊坂正一
仝	一四、一〇〇	鴨田庄平
仝	一三、〇五〇	菊地弁治
仝	一三、〇〇〇	小林蚕治
仝	一二、〇六〇	菅野　正
仝	一二、二〇〇	板橋二男
三等	一〇、五五〇	渋谷一穂
仝	一〇、一三〇	八巻文作
仝	一〇、〇〇〇	徳江重吉
仝	一一、八二〇	佐藤ヨツ
仝	九、六五〇	佐藤昭元
仝	一〇、八三〇	八島文蔵
仝	一〇、七〇〇	鈴木常之助
仝	一一、五七〇	大波幸治

第三次 自衛官募集

くわしいことは役場総務課でおきき下さい。

トラクターの願い

わたしは「農耕作業用軽自動車」です。一般には「トラクター」とよばれています。田を耕やすにも、農作物を運搬するにも無くてはならないものとして重宝がられていますので、わたしどもは鼻高高です。

ところで、ぜひお願いしたいのは「自動車損害賠償責任保険」のことです。自動車が道路を走るには、この保険に入り、そしてこの「保険証明書」を備えつけなければならないことになつています。わたしどもはぜひこの保険に加入していただいて、大いばりで道路を走りたいのです。「日かげの子」のようで、気もちが悪いのです。この保険は自動車の運行によつて人にけがをさせたような場合、損害賠償を保障する制度で、保険料は、一ヶ年僅かに七百八十円、この保険を扱う保険会社の代理店は町にあります。くわしいことは、警察署の交通係またはもよりの駐在所にお問い合わせの上、ぜひご加入下さるようお願いします。

（桑折警察署交通係）

親子で楽しいサイクリング

（きのこのおみやげどつさり）

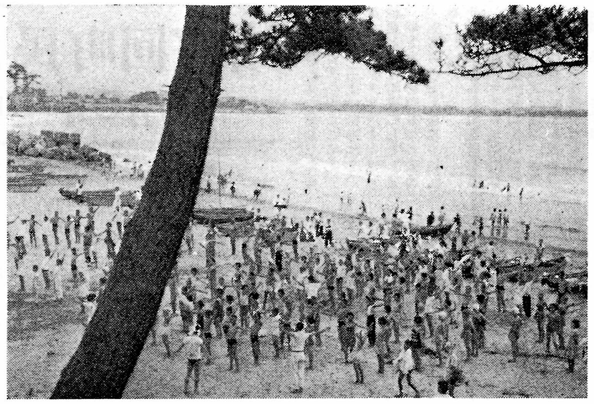
大町南部落では青少年補導員会が中心になり、部落会、婦人会（母の会）、自警団などあらゆる部落組織が協力して、子供会の育成につとめ、殊に夏冬の長期休み中だけでなく常時活動をすすめていることは「くにみ八月号」に紹介されたところであるが、二学期も始まつた九月四日、またまた親子サイクリングに出かけた。小中学生の希望者と親達有志を交えた一行三十人は、秩序整然と銀輪をふんで貝田四ツ穴に行つて来た。折からきのこ（おりみき）のまつさかりで、一同思いがけぬえものにほく〳〵。

【写真】は大木戸の堀割りで一休み風景

◎環境衛生……流れをきれいにするため川やほりにものを捨てることはやめましょう

◎公共物を大せつに……学校の花壇や土手をふまないようにつとめましょう

夏休特集（続）



県北中

思い出の宝庫　臨海学校

昨年六月より始められた準備貯金も予定額になり、七月二十八日から三日間、松川浦で臨海学校が開かれた。健康上の理由で参加できないもの二名は心残りでしたが、二年生百八十六名は元気よく参加し、忘れ得ぬ貴重な数々の思い出をつくりました。

例年のことながら、事前指導には先生方やPTAの方々が大変な努力を払い、特に貴重な夏休みを割いて一週間、着々と準備が進められ、観月台公園では野外訓練が行われるなど、万全の態勢が整えられました。事前指導はやや厳格過ぎた感もありましたが、結果としては非常に安心できる三日間となり、PTAから協力参加して下さつた奥山さんや朝内さんも、生徒たちの規律的な生活に感歎しておられました。生徒の作文にも「私達は臨海学校へ行く前〃心得〃などを話し合いながらあまり約束ごとが多いのでうんざりしていましたが、実際に行つてみるとそれほどむずかしくなかつた。」（小林恵子）という反省があり、非常に楽しかつた様子が伺える。

次に生徒作文より二・三のスナップを紹介してこの行事のレポートとする。

「…私達が生徒会まで開いて周到な計画を立てた団体生活が今始まろうとしているのです。着がえなどを入れたボストンバックやいろいろの荷物を重そうに腕にさげている。PTA会長さんや校長先生の話があつたが、駅前の広場を私達はひとりじめでもしているかのように感ぜられ、早く汽車にのりたいと思つた。」（高原幸）

「バスで中村駅から松川浦港駅までいつた時、みんな〃早く昼めしをたべたい〃という顔だつた。」「宿舎の人たちが迎えにきてくれた。おれたちのとまるところは松川浦港駅のうらなので、すぐ海がみえる。海のおばさんたちがあさりとりをしている。商売とはいえまつたくうまいもんだ。」（八島正美）

「八時に床についたが皆眠れないらしく、菓子の交換をしたり、歌をうたつたりしてひとときを楽しむ。それでも九時を過ぎると、旅の疲れが出たせいか、ちらほらいびきがきこえるようになつた。隣の人の腹に足をのせている人、一八〇度も回転して皆とは反対の方向をむいている人、毛布をかけてやつても器用な足でけとばしてしまう人など、さまざまである。」（奥山潮）

「海水浴場はあまりきれいな所とはいえない。準備運動をしてから海に入ると、思つたより水があたたかかつた。―中略―最初は尻ごみをしながら遊んでいたが、波乗りのコツをおぼえたらおもしろくてしようがない。まるで宙にでも浮いてるみたい。でも時時失敗しては口や鼻から海水が入つてのどがひりひりする。」（小西陽子）

その他楽しい夜のレクリエーション、食事のエピソードなど数限りなく、思い出は尽きない。尚学校では、この臨海学校の様子を四十余枚の天然色スライドに収め、来年度からの事前指導に役立てることになつている。

【写真】は準備体操

キャンプファイヤーの記

大木戸中　八島幸夫（三年）

七月二十九日、夏とはいえ台風の影響で、どんより曇つている。今日は待ちに待つたキャンプファイヤーの日である。

男女別、七八名づつのグループにわかれ、思い思いの泉を求めて青葉の中に入つて行くもの、校庭の片すみに陣どるもの、沼のほとりに集るもの、これは夕食の準備に飯盒炊さんをするために散らばつたのである。

グループの中では、かまどをつくる、たき木をあつめる、米野菜を洗う、すべて分業的に働らく。こうしてふつくらとしたおいしいごはんや、かおりよいみそ汁ができ、それぞれ車座を作り、リーダーを中心に食事をする光景は、実にほおえましい。みるみるうちに飯ごうの中味をすつかり平げて得意そうなものあり、又汁を余計作りすぎてもてあますところあり、それでも仲よくあと片づけして夜の行事に移る。

体育舘ですいか割りに一時を楽しみ、夜のとばりのおりるころ校庭に集まり、「夜の唄」の歌声と共にキャンプファイヤーの幕は明けられる。おごそかな宗教的雰囲気の中に点火はおわり、やがてあかあかともえあがるたき火を囲んで、各グループ毎に余興をする。合唱、器楽、舞踊、寸劇、ゲームとそれぞれ独特の出し物を披露する。一同、何か原始生活にもどつたというか、遠い故郷に帰つたというような気持になる。最後は、みんなで腕組みをし、一つの大きな輪を作つての大合唱だ。こうして時間のたつのも忘れて乱舞する。気がついてみるとキャンプの火は消え、空に一二の星がさびしく残つている。厚樫山は巨人の如くわれらに迫り、沼は白く光つて静かに眠つている。

【写真】は飯盒すいさん

…（第３回）…

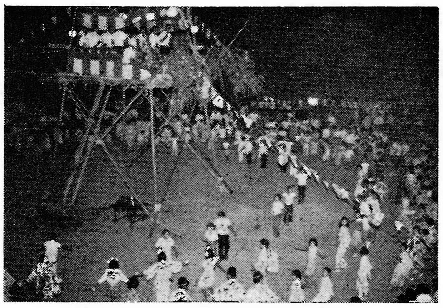
親子盆踊りを見るの記

―森　江　野―

九月一・二日の二日間、森江野小学校で、名物「親子盆踊り」をやるというので、見物に出かけた。

午後八時半頃すでに一千人を越す人出、森江野に住む人か全部集まつたかと思われるにぎやかさだ。やぐらをとりまく踊り子は、小学校の子供約三百名が先生方と大きな輪をつくり、中学生や青年が百名、それにPTA会員、消防団員、婦人会員など約百名という ところで、三つの大きな輪ができた。一番外がわの輪は、ひとまわりおどると三十分かかると鈴木校長先生はいう。

やぐらの飾りつけもすばらしく、それに照明もじゆうぶんであり、そのうえ二晩とも月明の美しい夜で、そよ風が青田をわたつて吹いてくる。



世間では「村づくり」とか「村ぐるみ」など理屈はいうが、これこそほんとの「村総ぐるみ」の体育レクリエーションであり、一円融合の姿だとつくづく感心させられた。

今年は、森野草平氏らが新しく歌詞をつくつてくばり、それを音頭とりが朗朗と歌つている。ひろつてみると、

青田わたつてきこえる太鼓
あれは森江野盆踊り
嫁にやるなら森江野にやらえ
親もおどれば子もおどる
森江野若い衆の心意気みやれ
今に日本の音頭とる
ひびく太鼓に穂に穂がゆれて
おどる親子もえびす顔
さまと踊ればまん丸まるい
月も空から音頭とり
親子どころかぢぢばば踊る
孫もせ中ではやしてる
親子踊りの太鼓をきけば
鍬や鎌までおどりだす
おらが名物親子の踊り
みせてやりたいあの人に

「資金はどうしてるのですか」と大会長徳江喜一氏（消防分団長）副会長石川暢男氏（PTA会長）に愚問をしてみる。

「寄附あつめはやりませんよ。お祝いをいただいているんです。もしも損をしたら各種団体で出しあいます。」

「そん得なしですよ。」

といわれた。一昨年も、昨年も、そして今年も残金ができれば青年団の活動資金にやるんだという。

「どうやつて組織するんですか」とまた愚問を続ける。

「この係員の一覧表をみてください。」と一枚の印刷物を渡される。部落長、地区出身町会議員、小学校長が顧問である。名与会長が農協組合長、会長が消防分団長、副会長がPTA会長で、係員は、消防団、PTA、婦人会、青年団の各種団体役員がみんなはいつている。社会体育指導員や小学校教頭が総務だ。なるほどうまくできている、これでは運営がうまくいくわけだと感心する。

森江野夫妻学級生も鈴木校長夫妻にならつて、夫婦そろつて二晩おどりぬいたというから、何とも美しくそしてまた嬉しい限りである。

【写真】は楽しい盆おどり

青年研修所運営委員会決る

昨春竣工した当町青年研修所は、その後もつぱら各種団体の集会や子供会の会場として使われ、その便利さをよろこばれてきたが、こんどいよいよ運営委員会ができ、本来の目的である研修所自体の計画による研修会が行われることになつた。委員会は左記の通り、農村振興の基盤となる各種団体の代表十名から成り、去る十一日初の会合を開き、互選の結果、八島建次郎氏が委員長に当選した。尚研修所は、研修計画に支障のない限り、これまでの通り施設の利用はさしつかえないので、大いに利用されることを望んでいる。

委員氏名

農改普及協力会長	谷口亀之助
農協連絡会長	菅野　秀明
議会経済委員	大波　由助
農事研究会長	菊地　憲七
農業委員会長	八島建次郎
農改推進委員会長	渋谷　一衛
蚕業中堅青年会長	奥山　邦夫
酪農協同組合長	斎藤　太助
連合青年団長	玉手　正平
同副団長	佐藤　洋子

9月の北辰映画

▽プログラム

○福沢諭吉の少年時代　5巻
○南極探検史…………3巻
○彼女の出発…………3巻
○でんぷんの性質……1巻
○おもちやの迷い子…2巻

▽巡回割当

7・8日	小坂方部
9・10・11日	藤田力部
12・13日	大木戸方部
14日	県北中、石母田
15・16日	森江野方部
17・18日	大枝方部

▽会場

各方部の委員会で決定する

県北中PTA表彰さる

去る七月二十七日会津若松市で開かれた第九回福島県PTA大会の席上、わが県北中学校PTAは、「組織運営がよく、学校教育の進展に寄与するところすこぶる大なるものがある」との理由で、連絡協議会佐藤一会長から表彰された。

「現在教育におけるPTAの役割を明らかにしよう。」「児童生徒の幸福のために、わたくしたちの総意を結集しよう。」のスローガンを掲げた会場で万雷の拍手を浴びながら、輝く表彰状を受けたわが佐藤利雄会長は感激の色をうかべ、蔭山校長と顔を見合せながら「これも日頃中学校にお寄せ下さつた皆々様の御協力の賜と深く感謝致します。」と語つた。

ますます伸びる簡易水道

（国見地区にも水道完成）

さきに、塚野目公営住宅地域の水道給水が完成してよろこばれていたが、今度は、森山国見の農家の人人の要望がかなつて、遠藤久吉さんや佐藤光一さんの高い屋敷まで配管が完成し、見事な給水ができて、主婦の方や娘さんの喜びはいうまでもなく、これで素晴しい嫁を迎えることができると男性達も大喜びである。

【写真】は喜びの遠藤さん夫妻

みなさまおそろいでおいでください　学校の運動会

九月十五日(木)	大木戸小中学校
廿三日(金)	藤田小学校
廿九日(木)	小坂小学校
十月二日(日)	県北中学校
四日(火)	大枝小中学校
五日(水)	森江野小学校

編集後記

◎六年つづきの否有史以来の豊作とのこと、米はとれたがさてみんなの経済（財布）はゆたかになつたか？

◎おかげさまで青少年もよくなりました。補導員のみなさま、今後ともよろしくお願いします。

◎親子そろつて楽しい生活これこそ先祖さまへのなによりの供養です。

◎オリンピック入賞まことにけつこう。町民（会員）のスポーツ総参加はなおよろこばしい。

◎国民年金、個人（標語）でまず金メダル、次は団体実績でも優勝といきたいものです。

◎スポーツの秋、選挙の秋、フエアプレーでいきましよう。選挙はすでに中盤戦だといわれます。「よく見、よくきき、よく選べ」

◎寄附はあくまで自発的なもの、割当は寄附ではなく負担金です。負担金ならみんなの承諾を得てからあつめて下さい。

◎九月十五日は「老人の日」毎日毎日が老人の日としたいものです。